

第3学年1組 国語科学習指導案

日 時 令和5年11月22日(水) 5校時
 児 童 3年1組 12名
 授業者 佐々木 侑香

1 単元名 組み立てをとらえて、民話をしょうかいしよう
 教材名 「三年とうげ」李 錦玉 作 (「国語 三(下) あおぞら」光村図書)

2 単元について

- ・本単元では、民話や昔話を取り扱う。民話の特徴的な場面展開や組み立てに意識を向けて作品を読む学習は、本単元が初めてである。
- ・児童は、これまでの学習で、3年生1学期「きつつきの商売」において、場面の様子に気を付けて読む学習を行った。物語の設定に着目し、場面ごとの様子の違いを表にまとめたことで、場面を意識して物語を読もうとすることができるようになった。さらに、同じく1学期「まいごのかぎ」や2学期「ちいちゃんのかげおくり」では、場面と場面を比べて読んだり、出来事との関わりを読んだりして、登場人物の気持ちの変化を捉え、感じたことを文章にまとめる等の学習を行っている。児童は、自分の考えに理由を付けて話したり、友達との対話を通して学習を進めたりすることが苦手であるが、お互いの考えを聞き合うことはできるようになってきている。本単元では、考えをまとめたり相手の考えとの違いを感じたりできるようにしていきたい。
- ・授業者は、児童が自ら考えたいくなるような、吟味された発問をする必要があると感じている。単元の中で発問を軸として思考を繰り返すことで、児童が根拠をもって話せるように導きたい。また、既習事項を基にして考えることで、学習のつながりを感じながら民話のもつ面白さを感じられる学習としたい。

3 単元の目標

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕	〔学びに向かう力, 人間性等〕
①様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。 (1)オ	①登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。 C(1)エ ②登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。 C(1)イ	①言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。

4 単元の「課題解決的な言語活動」

物語を読んで民話の面白さを感じ、感想をふまえてポスターに内容を紹介する活動。(関連：言語活動例イ)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 (1)オ	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 C(1)エ ②「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。 C(1)イ	①進んで登場人物の行動や気持ちの変化について、場面の展開を結び付けて具体的に想像し、見通しをもって民話を紹介しようとしている。

6 指導と評価の計画（全8時間）

	主な学習活動	指導上の留意点	評価
1・2	<p>○知っている民話や昔話について話す。また、言い伝えや地域に伝わる民話について触れる。</p> <p>○物語を読み、初発の感想を書く。</p> <p>○単元課題を確認し、学習計画を立てる。</p>	<p>・扉絵や「三年とうげ」という題名にふれ、「民話」に興味や関心をもって学習できるようにする。</p> <p>・物語の印象を「いんしょうメーター」を使って表し、そう感じたわけを中心に初発の感想を書く。</p> <p>・「おもしろいと思ったところ」、「ふしぎに思ったところ」、「深く読みたいところ」の3点に着目し、学習計画を作成する。</p> <p>・初発の感想を項目ごとに分け、読みの視点を「しんさこうもく」とすることを確認する。</p> <p>・学習計画を立てるために、「三年とうげ」を読んで民話の面白さを知り、他の民話についても『私がえらんだ民話大賞』としてしょうかいする」という単元のゴールを知らせ、見通しを示す。</p>	
	<p>審査項目 ①すてきなリズムや表現 ②面白い登場人物 ③物語の組み立て ④解決場面</p>		
3・4・5	<p>○並行読書をする。</p> <p>○「三年とうげ」を読み、おおまかな内容を捉える。</p> <p>審査項目①「すてきなリズムや表現」</p> <p>○話の設定を確かめる。</p> <p>○登場人物と中心人物を確認する。</p> <p>審査項目②「面白い登場人物」</p> <p>○場面を分ける。</p> <p>審査項目③「物語の組み立て」</p>	<p>・おおまかな内容を捉えるために、全文通読をし、挿絵を使って話の流れを確認する。</p> <p>・「登場人物」や「中心人物」を正確に読みとることで、作品の輪郭となる部分を全体でつかみ、学習の基盤となる知識をそろえる。</p> <p>・設定を確かめるために、上記の用語について「国語キーリング」を使って既習を確認する。</p> <p>・行動や気持ちを確かめることで、登場人物の面白さに気付けるようにする。</p> <p>・物語の組み立てを捉えるために、話を場面に分ける。</p> <p>・おおまかに理解していた物語を「時」や「場所」、「出来事」という視点で読み、場面を分けることで、民話の4つの組み立てを捉えられるようにする。</p> <p>・起承転結の構成が民話の面白さの一つであることを確認する。</p>	<p>【知・技①】</p> <p>国語辞典を使ったり、挿絵を参考にしたりしながら、文中の語句を理解して話を読んでいるかどうかの確認。</p> <p style="text-align: right;">〔発言〕</p> <p>【思・判・表②】</p> <p>登場人物の様子や気持ちを表す表現を文中から見つけ、それらを自分なりの言葉で具体的に説明し、表情マークをつけているかの確認。</p> <p style="text-align: right;">〔記述・発言〕</p> <p>【思・判・表②】</p> <p>視点に沿って物語を読み、話の移り変わりを捉えながら場面を分け、それぞれの簡単な内容を理解しているかの確認。</p> <p style="text-align: right;">〔記述〕</p>
6 (本時)	<p>○中心人物の変化について読む。</p> <p>審査項目④「解決場面」</p>	<p>・民話の組み立ての一つである、解決場面を詳しく読むことを確認する。</p> <p>・事件が解決するのはあくまでも登場人物の気持ちが変わったときであることを押さえる。</p>	<p>【思・判・表①】</p> <p>事件解決の瞬間について具体的に想像したり、場面の移り変わりを表す言葉に着目したりすることで、登場人物の気持ちの変化を捉えているかの確認。</p> <p style="text-align: right;">〔記述〕</p>
7・8	<p>○「三年とうげ」のまとめをし、これまでの学習を振り返りながら、『わたくしがえらんだ民話大賞』を決める。</p> <p>○ポスターを完成させる。</p> <p>○選んだ民話について紹介する。交流し、単元のまとめを行う。</p>	<p>・「三年とうげ」の学習を生かして、審査項目に沿って他の民話も読み、大賞を選ぶ。</p> <p>・組み立てや、面白さについて考えを交流し、単元をまとめる。</p>	<p>【学習に取り組む態度①】</p> <p>登場人物の気持ちの変化や場面の様子について想像したことを基に、進んで民話を紹介している。</p> <p style="text-align: right;">〔記述・発言〕</p>

7 本時の指導 (6/8)

(1) 本時の目標

心情描写や行動描写から物語を想像したり、文章に着目したりして中心人物の気持ちの変化を捉えることができる。

(2) 展開 (45分)

段階	学習活動	・指導上の留意点【視点に関わって】◇評価
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 学習課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返る。 ・学習課題を立てるために、学習計画表を見たり、「三年とうげ」の話の組み立てを確認したりする。 ・事件が解決することが民話の特徴の一つであることを共有し、解決場面を詳しく読むことを確認する。
	<p>おじいさんの病気は、いつ、どうやって治ったのだろう。</p>	
展開 30分	3 課題解決のための見通しをもつ。 (1) おじいさんの気持ちを確認する。 ・第二場面は 😞 しょんぼり！ ・第四場面は 😊 にっこり！ (2) 見当をつける。 ・事件解決は、この間にありそうだ。	<ul style="list-style-type: none"> ・初めに「いつ」治ったのかについて考えていくことを伝える。 ・既習事項から、おじいさんの心情を想起させ、変化の過程に事件解決がありそうだ、という予想を立てる。 <p>【視点1ア：文章解釈のための発問の吟味「とりかかる発問」】 選択肢を与えたあとに「どの形式段落にあるのだろうか？」と問うことで本時の課題に迫る。</p>
	4 課題を解決する。 (1) 自力解決 (8分) ① 選択肢⑫～⑯のなかから選ぶ。 ② そう考えたわけを説明する。 (2) グループ学習 (8分) ① ノートや教科書を見せ合い、お互いの考えを交流する。 ② グループの考えをまとめる。 (3) 全体学習 ① 発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを相手に示すために、選択肢を選び、選んだ理由をノートに書くという学習活動を行う。事件が解決する場面について、変化に着目して読み、理由を本文に即して書くよう指示する。 <p>【視点2：考えを積み上げる対話】 全員で話し合い活動に参加し、考えを補いあったり練り合ったりするために分からないことをはっきりと伝えるように指示する。また、友達の考えを繰り返したり質問し合ったりして、お互いの考えを正しく受け取っているか確かめ合うことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通点や相違点を出し合い、グループの意見をホワイトボードにまとめる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・⑬だと思います。なぜかという、トルトリの言葉が面白いし、おじいさんも布団から顔をだしているからです。 ・⑭だと思います。なぜかという、ずっと泣いていたおじいさんがトルトリの言葉で納得してうなずいているからです。 ・⑮だと思います。なぜかという、いままで布団に入っていたのに、はね起きていて、変化があると思ったからです。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ② 考えを整理する。 ③ 13段落の必要性を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えがまとまらないときには、定義を確認したり、既習事項を復習したりして、授業者のコーディネートのもと、全体の考えを整理し確認していく。 <p>【視点1イ：文章解釈のための発問の吟味「ゆさぶる発問」】 考えが絞られてきた段階で、「⑮は、なくても事件は解決できたのではないだろうか？」と考えをゆさぶる発問を投げかける。おじいさんの病気は、心情の変化が大きく反映していることを捉えさせたい。また、その変化はトルトリの知恵によって引き起こされていることを読ませたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆさぶる発問によって、トルトリの知恵が事件解決に大きく関係していることを押さえ、「どうやって」の部分についても理解できるようにする。

終末 10分	5 学習をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題についてまとめる。 ・審査項目④「解決場面」に記述するよう指示する。
	おじいさんの病気は、⑭のときにトルトリの話を聞いてなっとくしたので治った。	
	6 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容を生かした振り返りを書くために、視点を与える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめは、事件の解決がおじいさんがもう一度転んだ時だと思っていたけれど、おじいさんの気持ちが変わった時だとわかりました。 ・〇〇さんの発表を聞いて、おじいさんはトルトリがいなかったらきっとまだ布団の中にもぐっていたのかもしれないと思いました。だから、おじいさんをちえをつかってなっとくさせたトルトリはすごいと思いました。 ・他の民話を読んだときも、くわしく読んで民話大賞をきめたいです。 </div>
7 次時の確認をする。	<p style="text-align: center;">◇心情描写や行動描写から物語を想像したり、文章に着目したりして、事件解決であるおじいさんの心情がいつ、どのようにして変化したのか捉えることができているかの確認。</p> <p style="text-align: right;">[まとめ・振り返りの記述]</p>	

8 板書計画

① ふ

おじいさんの病気が治ったしゅんかん

←

トルトリのちえ

なっとく

② ま

(読みシュラン) ☆☆☆☆☆

おじいさんの病気は、⑭のときにトルトリの話を聞いてなっとくしたので治っています。トルトリがかしくくてすごいと思いました。

③ 見

事件・・・おじいさんが病気になったこと

・第一場面は しよんぼり

・第四場面は にっこり

文章、言葉に着目して考える。

↓

④ ⑫～⑬にありそうだと

⑤ 課

三年とうげ

おじいさんの病気は、いつ、どうやって治ったのだろう。

9 本時の授業改善の視点

【視点1ア：文章解釈のための発問の吟味「とりかかる発問」】

本時は、物語の解決部分について読み、おじいさんの心情変化について考える学習である。そのため、事件解決が「いつ」「どのようにして」なされたのかを捉えさせたい。そこで、選択肢を与えたあとに「どの形式段落にあるのだろうか？」と問うことで本時の課題に迫る。

【視点2：考えを積み上げる対話】

全員で話し合い活動に参加し、考えを補い合ったり練り合ったりするために分からないことをはっきり伝えるよう指示する。また、友達の考えを繰り返したり質問し合ったりして、互いの考えを正しく受け取っているか確かめ合うことができるようにする。個人からグループ、全体へと学びを広げ、授業者のコーディネートのもと、考えを整理していく。

【視点1イ：文章解釈のための発問の吟味「ゆさぶる発問」】

全体交流を通して、ある程度考えがまとまってくることが予想される。そこで、「⑬は、なくても事件は解決できたのではないだろうか？」と考えを揺さぶる発問を投げかける。これによって学習課題の「どのように」の部分についても考え、事件解決はトルトリの知恵によって引き起こされ、おじいさんの心情変化に大きく反映していることを捉えさせる。また、これらの表現によって物語に深みがでていていることを感じとらせたい。